

【学生による ESD 活動支援】

奈良市立済美南小学校 親子燈花会 支援報告書

心理学専修 学部 2 回 久保田真平

1. 実施日 平成 30 年 8 月 3 日 (金)
2. 場所 奈良市立済美南小学校
3. 参加者 久保田真平 (学部生)
奈良市立済美南小学校 教員、児童、保護者 複数名
4. 活動支援内容

平成 30 年 8 月 3 日、済美南小学校にて、親子燈花会が行われた。本活動は毎年開催されており、奈良教育大学の学生も毎年支援を行っている。今回は、親子燈花会の準備、片付けなどの支援を行った。

今回の活動支援で、私は 3 つのことを学んだ。1 つ目は連携の大切さについて、2 つ目は臨機応変に動くことの必要性について、3 つ目は児童の動きに目を配る大切さについてである。

1 つ目の連携の大切さについてである。準備の際に、グラウンドに大きな文字で「済南」と書く作業があったのだが、この文字はかなり大きく書く必要があり、一人では到底できない作業であった。そこで先生方は、皆で協力し合い、短時間で文字を書いていた。このことから私は、連携して協力することの大切さを知った。

2 つ目の臨機応変に動くことの必要性についてである。子どもたちが会場に訪れ始めると、子どもたちを待たせるわけにもいかず、ろうそくを配布したり火を燈花会に点けたりと素早く準備を行った。準備では、先生方からの指示を待つだけではなく、状況を素早く把握し、行動する必要がある。実際に周りに目を配り、自ら行動を起こすこと臨機応変に動くことは、とても難しいことだと感じた。

3 つ目の児童の動きに目を配る大切さについてである。本活動は火を扱うため、子どもたちの安全を確保することも大切となる。もし誤って、燈花会を蹴ってしまうなどのことが起こり、児童が火傷をしてしまう恐れもあるため、児童にしっかりと目を配る必要があった。幸い走り回っていた児童はいなかったが、火を使う現場では、特に目を配る必要があると感じた。



燈花会で作った「済南」の文字



伝統の燈花会を並べる

以上より私は今回の実践で、みんなで助け合う大切さを学んだ。親子燈花会は一人でやるには過酷すぎるため、みんなの力でやる必要があった。なので、地元の子どもたちや、他の先生方と一緒に今回の親子燈花会の実行を行った。しかし、大勢の人と一緒にイベントを行っていくには、指示の出し方に工夫が必要で済美南小学校の教員の方々の様子を見て、指示の出し方の難しさや大変さを知ることができた。これからは指示を出す側に回ることが多くなるのでしっかりと観察して勉強していきたい。